



いちご農家ではどんな 技術を行っているか？



1 夜冷処理

いちごの苗に秋がきたのを早く人工的に感じさせて、花芽分化※を早めるための技術です。

本来の秋がくるよりも早く秋を感じさせることで、いちごの花が早く咲き、いちごが早く収穫できるようになります。(いちごの栽培の1年を参考にしてください。)

※花芽分化とは、将来花になる細胞ができることです。



2 ミツバチを利用します

秋から春にかけてハウスの中で栽培をしていると、外からハウスの中のいちごの花にやってくる昆虫がいません。そこで、ハウスの中でミツバチを放し、ミツバチが花から花へ活動することで、いちごがきれいな形になります。



3 ウォーターカーテン

栃木県のいちごはパイプハウスで栽培されていることが多いです。パイプハウスの多くは2重になっています。パイプハウスの内側に夜の間に、地下水をかけると、ハウス内の保温をすることができます。

